

## 在宅医療支援システム研究会次第

日時 令和元年 11 月 26 日（火）

18 時 30 分～

場所 介護老人保健施設くろかみ 研修室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 報告・紹介事項

- (1) 鹿児島県薩摩川内市視察について
- (2) ピオーネシンポジウムについて
- (3) 認知症普及講演会について
- (4) 第 2 回医療・介護多職種連携会議について
- (5) 高梁市との情報交換会について
- (6) 精神科遠隔診療について
- (7) その他

### 4 協議事項

- (1) 情報連携システム推進事業について
- (2) 認知症ケアに係る医療連携体制整備事業について
- (3) その他

### 5 その他

次回開催日

令和元年 12 月 日（ ）

## R1.10.30 鹿児島県薩摩川内市議会 生活福祉委員会の方が視察にこられました

2019/10/30 更新



視察の様子

R1年10月30日 午後2時～午後3時半まで、鹿児島県薩摩川内市議会 生活福祉委員会の方が視察に来新されました。

薩摩川内市は離島を抱えておられ、合併に伴う診療体制の維持が課題となっているそうで、新見地域の遠隔医療の取り組みを聞きにこられました。

新見医師会 太田会長から遠隔医療の取り組みの説明があり、議員の皆様から質問を受け、課題等について意見交換を行いました。

薩市議第971-1号  
令和元年10月9日

一般社団法人 新見医師会  
会長 太田 隆正 様

鹿児島県薩摩川内市議会  
議長 福田 俊一郎



行政視察について（依頼）

時下、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当市議会生活福祉委員会が行政視察のため、下記のとおり貴会を訪問させていただきます。

つきましては、御多忙中恐縮に存じますが、御教示賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 令和元年10月30日（水）  
午後2時から午後3時30分まで（予定）
- 2 人 員 8人（委員7人、事務局1人）  
委員 長 中島 由美子  
副委員 長 森満 晃  
委 員 福田 俊一郎、川畑 善照、永山 伸一  
福元 光一、成川 幸太郎  
（随行：担当書記 堀之内 孝充）
- 3 調査事項  
・ ICTを活用した在宅医療・介護支援（新見地域在宅医療支援システム研究会）  
の取組について  
(1) 遠隔医療システムを用いた地域医療の概要について  
(2) これまでの実績・成果について  
(3) 課題・今後の展望について

薩摩川内市議会事務局 議事調査課  
担当書記：堀之内 孝充  
鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号  
電話 0996-23-5176 F A X 0996-23-5015  
E-mail:t.horinouchi@city.satsumasendai.lg.jp

## R1.11.2 第4回ピオーネシンポジウムに参加しました

2019/11/02 更新

R1年11月2日（土）に新見公立大学 学術交流センター3階で開催された「第4回PIONEシンポジウム」に参加しました。公文学長の挨拶のあと、パネルディスカッションが開催され、新見市在宅医療・介護連携支援センターの取り組みも発表させていただきました。

休憩後、グループワークを行い、閉会となりました。

市民の方とのグループワークで、様々な視点からのお話が聞け、大変勉強になりました。

## R1.11.4 認知症普及講演会に参加しました

2019/11/04 更新

R1年11月4日（月） 13：30～16：10まで、まなび広場にいみ小ホールで開催された「市民研修会 認知症について考えよう」に参加しました。

はじめに、新見市医療・介護連携推進協議会の矢田貝会長より「地域の皆様に認知症について考えていただく機会としていただき、一緒にこの地域を良くしていきたい。」と挨拶があり、開会となりました。

つづいて講演が行われ、たいようの丘ホスピタル 副院長の兒玉先生が「家族や身近な人が認知症になったらどうなる？ どうしたらよい？」をテーマに、分かりやすく関わりのポイントやコツについて話されました。

その後ドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願いします」が上映され、閉会となりました。

令和元年度 第2回医療・介護多職種連携会議 次第  
(在宅医療に従事する人材育成研修会)

日時： 令和元年 10月 30日 (水)

18:30～20:30

場所： JA 阿新生活センター2階会議場

1 開 会

2 あいさつ

3 講 演

「糖尿病による眼合併症～糖尿病性網膜症を中心に～」

こだま眼科 院長 児玉州平医師

「見えるものが全てじゃない～みえないモノとの戦い方～」

—糖尿病合併症について—

太田病院 内科医長 太田徹医師

～ 休 憩 ～

4 ディスカッション

意見交換

質疑応答

5 あいさつ

7 閉 会

## R1.10.30 第2回医療・介護多職種連携会議を開催しました

2019/10/30 更新



あいさつをされる太田会長



講演をされる児玉先生



講演をされる太田徹先生



会場の様子

R1年10月30日 午後6時半～8時半まで、JA阿新生活センター 2階会議場で、令和元年度第2回医療・介護多職種連携会議を開催しました。

はじめに新見医師会 太田会長より「糖尿病について取り組みを継続しているところ、今日は眼科医の児玉先生よりお話をいただく予定。勉強していただき、今後の取り組みに活かしてほしい。」と挨拶があり開会となりました。

講演は2題あり、「糖尿病による眼合併症～糖尿病性網膜症を中心に～」と題し、こだま眼科 院長 児玉先生が眼科の症状と治療方法などを丁寧に説明して下さいました。

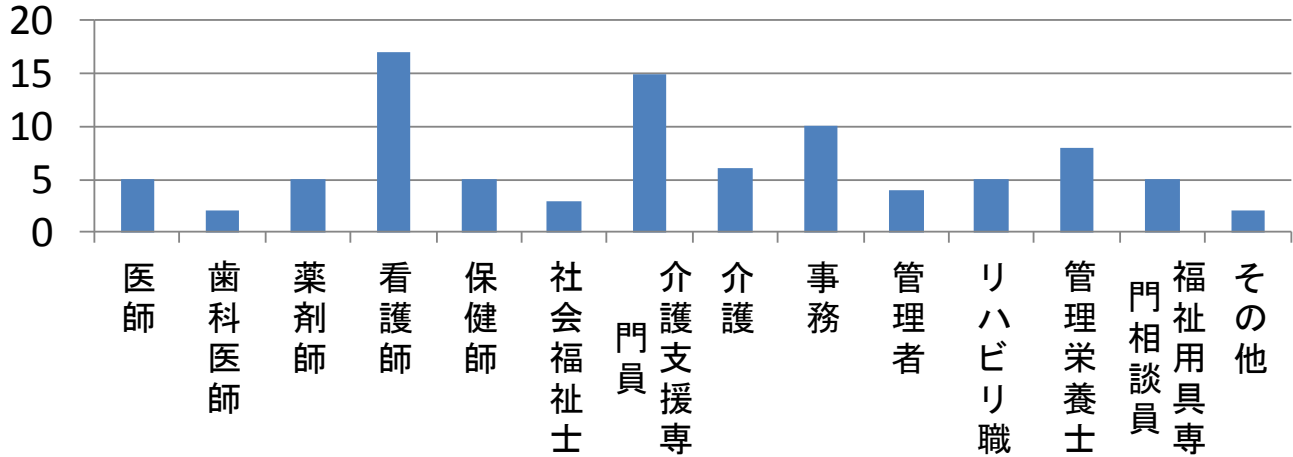
つづいて、太田病院 内科医長 太田徹先生が「見えるものが全てじゃない～見えないものとの戦い方～糖尿病合併症について～」と題し、糖尿病の合併症で気をつけるべき症状やポイントを話されました。

講演後質問にお答えいただき、閉会となりました。




当日は約100名の方が参加されました。

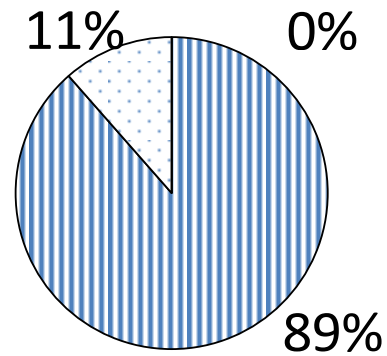
## 令和元年度 第2回医療・介護多職種連携会議 アンケート結果

参加者内訳



Q2. 今日の研修会に参加する前と後で、糖尿病の合併症に関して理解が変わりましたか？

-  はい
-  とちらとも  
いえ
-  いいえ



研修会参加者数 92名 アンケート回答者 61名 回収率 66%

Q3. 今日の研修会に参加する前と後で、糖尿病の合併症について理解が変わりましたか？それはどのようなことですか？

- ・合併症についての知識が深まった
- ・失明について医療が向上したことがわかった
- ・糖尿病では、内科受診以外に眼科受診が大事になること
- ・眼科受診が大切ということ
- ・眼科って奥が深い!!
- ・糖尿病と目の関係、合併症が大変多いこと
- ・病気の説明、どうなったら合併するなど分かりやすいお話でした。眼について基礎知識を知ることが出来た
- ・データのコントロール良好であっても、網膜症が進行していることもある
- ・腎臓重症化、眼の疾患について、いかにDMのコントロールが必要か、簡単に考えては駄目だということ
- ・透析や失明などにならないように早めに受診をしないといけない
- ・糖尿病でHbA1c値は大切だと思っていました。厳密に値を下げるのもよくないと知り驚きました
- ・HbA1c低値であればよいかと思っていたのですが、心血管イベント発生リスク等の関係があることが分かりました
- ・悪化する前に、予防することが大切だと思いました。一見、眼の病気とはあまり関係のないような病気から眼の病気に影響をしていくことがわかりました
- ・DMコントロール厳しくしすぎるのも良くない
- ・合併症の症状等、また本人が気付かない場合でも病状が進んでいること
- ・血糖だけでなく、生活の質、バランスも必要であること等
- ・厳格な数値管理が必ずしも必要ではないこと
- ・注意すべき点。数値にとらわれない
- ・血糖値HbA1cを下げるだけが、治療ではなくて、年齢や薬の使用状況で目標値は変わってくる



- ・糖尿病の方との会話の中から、異常の早期発見が出来るようにしていきたい
- ・糖尿病は万病の元
- ・3大合併症以外に、歯周病などにも注意しないといけないとわかった
- ・足を見る、歯を見る等のことを見逃していました
- ・なんとなく歯科との関連があるという考えでしたが、完全ではないですが、理解できたかなと思います
- ・早めの受診を勧めていく
- ・腎症について早期に対応する必要があると感じた
- ・糖尿病合併症の怖さ
- ・HbA1cの数値だけで判断しないこと
- ・他科でどういうことを診ているか、ということが少しながらわかった
- ・患者の「眼が見えない。見えにくい。」の一言を聞き流さず評価しようと思いました
- ・低血糖が死亡率高い
  
- ・相手の方をしっかりと見て、㊦㊧㊨について情報を受け取っていききたいと思う

**Q4. あなたの職場で、糖尿病の合併症について取り組まれていることがあれば教えてください。**

- ・ポスター掲示にて情報提供
- ・糖尿病チェックシートの活用の声かけをしていきたい。今出来ていないので…
- ・定期的病院受診、体を動かすこと
- ・手術に際し、インシュリンスケールを利用し、血糖コントロールをしている（感染予防のため）
- ・糖尿病の合併症だけではなく、口腔内の保清については重視しています
- ・足のセルフチェックをするように、全ての糖尿病患者さんに伝えていきます（栄養指導時）
- ・糖尿病があれば歯周病との関連、治療の重要性を説明するようにしています
- ・今日の研修会に参加したので、持ち帰って職場で共有することになっています
- ・訪問時に体調を聞き取りする
- ・足を見る
- ・体重を受診時に必ず測る
- ・受診までの間に注意したこと、失敗したことなどを聞き取る
- ・眼科、歯科受診への受診のすすめ
- ・血液検査のデータやインシュリンの単位の確認、足の確認（低温火傷、褥瘡）
- ・糖尿病チェックシートを少しずつですが使わせてもらっています
- ・歯科なので、歯周病と糖尿病がお互いにリスク因子であることを勉強すること、患者へそのリスクと歯周病治療の重要性を伝えること+行うこと+その継続
- ・高血糖で入院され、治療していなかった方は、一度眼科受診をすすめている
- ・フットケア
- ・DMと診断された際には、眼科受診を勧めている
- ・インスリンをされている方、透析をされている方はなかなか病気を受け入れできなく、会話にも気を使うことが多い
- ・内科ですが、眼底カメラ検査を実施しています。その結果、医師の判断で眼科へ紹介しています
- ・血糖コントロール状況の確認

**Q5. 新見地域で今後、糖尿病合併症への取り組みを行っていく上で、こうしたらいいというご意見がありましたら教えてください。**

- ・一般の方への教育、周知、情報提供
- ・健康診断で眼底検査等はしますが、歯科検診はなかなか自らする方は少ないです。歯または義歯の調整はとても大事だと感じています
- ・予防が一番だと思います
- ・糖尿病ノートや介護れんらく帳などを記入する習慣をつけると、どの病院に入院したりしても、コントロールの状況や情報がとりやすくなるのではと思う
- ・情報共有・専門につなげていくことが大切だと思います
- ・血糖値（HbA1c）を下げるのが目標ではなく、合併症を引き起こすことが目標であることを意識すればよいと思う

ます

- ・定期的に歯科に行っているかなどのチェックを行っていったらと思います
- ・小学校等で出向いて、伝えていくこと
- ・糖尿病予防の取り組みを強化していくこと
- ・自宅で過ごしている高齢者のDMの方への支援
- ・多職種との連携
- ・高齢の方の場合は、家族（特に子供さん）などにも話をしていくことが大切だと思う（今の状態などを伝えて、子供さんなどにも気をつけてもらえたらよい）
- ・連携をテーマに研修を重ねて
- ・別の研修会でも、検診受診率が低い（岡山県が）という指摘がありました。合併症に関しては、その知識（情報）が一般の方に浸透していない感があります。早期発見、早期治療につきますと思うので、悪くならないよう、啓蒙していくことが必要だと思いました
- ・最期のスライドの輪の中に、ぜひ歯科医師、歯科衛生士を入れて下さい
- ・多くの人に色々と病状の進行をしってもらう
- ・小コミュニティ毎でも、糖尿病合併症についてミニ勉強会をする
- ・糖尿病の病気の知識を広める
- ・アイチャンネルで糖尿病のシリーズ放送
- ・合併症の恐ろしさがわかる寸劇の放送
- ・リーフレットの配布、地区での説明会、学校でも説明していく
- ・早期発見をする為に、目、足、異常があれば受診をすすめる
- ・アイチャンネルで糖尿病予防や、合併症予防（重要化予防）について継続的に取りあげて、広く市民に普及啓発していく（市民が予防意識を高めていく取り組み）
- ・眼科、歯科へ紹介しやすい体制
- ・新見での連携マニュアル（HbA1c〇%で専門医紹介、〇月〇日眼科…など）
- ・多職種の連携に気をつけて、観察の目を多く持ちたい
- ・認知症などの患者様も多く、内科状況が分からない方もおられます。血糖値の手帳、くすり手帳など記入していただき、他院受診するよう患者様にも伝えていただけたら診察する上で助かります
- ・糖尿病に対して、一般の方でも理解できる勉強会や冊子を作って、少人数で学べる場を作る。時間がとれるかはわからないが、土・日夜などを利用して中年（40～50代）の方も参加しやすくする

**Q6. 講義の内容や、会議の企画・運営に対するご意見（グループワークの方法など）があればご自由にお書き下さい。**

- ・もう少し時間に余裕があればよかったです
- ・太田先生のお話もう少し聞きたかったです。もっと伝えたいことがあったのではと思いました
- ・少しつめ過ぎですが…これでいろいろと連携していけたらと思います
- ・地元の医師の話が聞けてよかった。続けてほしい
- ・グループワークもしたかったです
- ・公演時間、ディスカッション時間の配分をきちんと決めて進められたら良かったのではと思います
- ・眼科の専門的な話が聞けてよかった
- ・眼科の専門医の話は初めて聞きましたが、わかりやすい内容で勉強になりました

※同じ内容のご意見はまとめて掲載させて頂きました

## 質問への回答

### 質問

・アルブミン尿と尿たんぱくは同じですか？たんぱく尿は若い頃から、(+)とか(±)とか出る方がいますが、糖尿にも注意が必要ですか？

### 回答

・タンパク尿とアルブミン尿はちがいます。タンパク尿の中にアルブミン尿があります。タンパク尿自体が腎機能を低下させることがあるので、状況に応じて高血圧がある場合は降圧剤(ACE阻害剤、ARBなど)を積極的に使用することで、タンパク尿自体が減ることがあります。また体重によるタンパク尿もあり、体重管理が重要かもしれません。なおタンパク尿が出ているからと言って糖尿病を心配する必要はありません。ただし糖尿病がある人のタンパク尿は多くがアルブミン尿であることが多く、そのためにチェックをする必要があり、減らすためには、上記降圧薬に加え、糖尿病、血圧、コレステロール、体重が重要です。

太田病院 太田徹医師

看護師、准看護師の皆さまへ

# 看護師等の労働環境改善に関するアンケート

## 《アンケートへのご協力をお願い》

平素より市政の推進にご理解を賜り、誠にありがとうございます。

本市は、平成30年5月に持続可能な地域医療体制の構築を目的とする市独自の高梁市医療計画を策定しました。

高梁市医療計画検討委員会では、この度、看護職員の労働環境に関する実態を把握し、計画でも掲げている労働環境の改善に向けて課題を明確にし、皆さまが安全に、安心して働き続けられる職場づくり、持続可能な働き方などに関して検討するための資料を得ることを目的として、「看護師等の労働環境改善に関するアンケート」を企画しました。

本調査は、看護の業務に従事されている市内病院に勤務される方を対象としています。

ご多忙のこととは存じますが、取り組みの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 《ご回答にあたってのお願い》

本アンケートは無記名方式です。アンケート用紙等にお名前やご住所をご記入いただく必要はございません。回答内容は、本調査でのみ使用させていただきます。

プライバシー保護のため、提出の際は、同時に配布する封筒をご使用ください。

**期 限：令和元年11月15日（金）**

本アンケートについてのお問い合わせ先

高梁市役所 健康福祉部 医療連携課

〒716-8501

岡山県高梁市松原通2043

電話：0866-21-0304

Fax：0866-23-0655

メール：[iryorenkei@city.takahashi.lg.jp](mailto:iryorenkei@city.takahashi.lg.jp)

あなたご自身のことについてお聞きします。

問1 あなたの年齢を教えてください。(平成31年4月1日時点)

( ) 歳

問2 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

1. 女性                      2. 男性

問3 あなたの資格を教えてください。(1つに○)

1. 看護師                      2. 准看護師

問4 あなたの転職経験を教えてください。(1つに○)

1. 転職経験なし              2. 転職経験あり  
(⇒これまでに勤務した職場の数:              箇所)

問5 現在の職場を選んだ理由を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

1. 高梁市が自身の出身地なので              2. 高梁市が家族・親戚の出身地なので  
3. 高梁市に知人がいるので                  4. 高梁市に有名な先生がいるので  
5. 勤務先の労働環境が良いので              6. 勤務先の給与・福利厚生が良いので  
7. 地域医療に興味があるので              8. 高梁市に貢献したいので  
9. 派遣を命じられたので                      10. 奨学金の義務年限があるので  
11. その他 (                                      )

問6 あなたの雇用形態を教えてください。(1つに○)

1. 正規職員              2. 短時間正規職員              3. 正規職員以外(パート、アルバイト等)

問7 あなたの職位を教えてください。(1つに○)

1. スタッフ              2. 主任相当職              3. 看護師長相当職              4. 看護部長等管理職

問8 あなたの配属先を教えてください。(1つに○)

1. 病棟              2. 外来              3. 在宅ケア(訪問看護・地域連携室等)              4. その他

問9 あなたの居住場所を教えてください（1つに○）

1. 高梁市内

2. 高梁市以外（市町村名： ）

問10 問9で「2」を選んだ方にお聞きします。

どのような制度や支援があれば市内に住むと思うか、又市内に住んでいない理由などを教えてください。


あなたの勤務内容等についてお聞きします。

問11 あなたが行っている業務で一番時間を要している業務（順位づけ）と時間（8時間勤務で概ね何分か）を教えてください。

	看護業務	順位	何分
1	直接ケア（清潔、排泄、食事介助等）		
2	診察・検査・処置等の介助		
3	看護実践に関する記録（基礎情報（収集も含む）、看護計画、看護指示、サマリー等		
4	診療報酬に関わる書類作成（入院診療計画書、看護必要度チェック・評価記録、退院療養計画書等）		
5	患者・家族への教育・指導		
6	チーム医療に関連するミーティング		
7	必要性を感じない業務（具体的に： ）		
8	その他（具体的に： ）		

**問 12** あなたが行っている業務で他の職種で対応可能な業務と対応可能職種と時間（8時間勤務で概ね何分か）を教えてください。

	他の職種で対応可能な業務	対応可能職種	何分
1	病室環境の調整、病床周辺の清掃・整頓		
2	シーツ交換、ベッドメイキング（退院後、空床、離床可能な人）		
3	リネン類の管理等		
4	処置・検査等の伝票類の準備・整備、診療に必要な書類の整備		
5	診療に必要な器械・器具等の準備、片付け		
6	診療材料の補充・整理		
7	入退院・転出入に関する業務等		
8	食事に関する業務（配膳・集膳・下膳・食事介助・お茶等）		
9	身体の清潔に関する業務		
10	排泄に関する業務（オムツ交換、尿便器の洗浄等）		
11	安心安楽に関する業務		
12	移動・移送に関する業務		
13	その他（具体的に： )		

**問 13** あなたの現在の労働環境について教えてください。（1つに○）

**F**

1. 労働環境に満足しており、特に改善の必要は無い（⇒ 問16へ）
2. 改善してほしいが、現実的には難しいと思う
3. 改善してほしい
4. 労働環境を理由に退職を検討しており、早急に改善してほしい

**問 14** 問13で「2」「3」「4」を選んだ方にお聞きします。

改善が必要な内容を教えてください。（あてはまるもの全てに○）

- |            |             |              |
|------------|-------------|--------------|
| 1. 勤務形態    | 2. 時間外労働    | 3. 給与の引き上げ   |
| 4. 育児支援    | 5. 介護支援     | 6. 有給休暇の取得   |
| 7. 教育・研修体制 | 8. 看護補助者の活用 | 9. 他職種との業務分担 |
| 10. その他    |             |              |

問15 問14で改善が必要な内容について具体的に教えてください。

--

問16 あなたが職場環境で重要と考えるものを教えてください。

(あてはまるもの1位～5位まで記入)

	職 場 環 境	順位
1	納得できる収入（給与）	位
2	人事評価・処遇改善（昇進・昇格等）	位
3	業務量の軽減	位
4	労働時間の短縮（超過勤務が少ない）	位
5	夜勤の負担軽減	位
6	休暇の取得促進（休暇が取れやすい）	位
7	母性保護制度の充実	位
8	子育て支援の充実	位
9	福利厚生 of 充実（7、8以外）	位
10	多様な勤務形態の導入促進（柔軟な体制）	位
11	教育、キャリアアップの機会の充実	位
12	専門性・資格への評価の促進	位
13	上司や先輩による教育・指導	位
14	職場の人間関係が良好	位
15	雇用の安定性確保	位
16	医療安全体制の充実	位
17	職場と自宅が近い	位
18	通勤の便が良い	位
19	仕事の楽しさ・やりがい	位
20	その他	位
21	特になし	位



問 17 あなたの職場や仕事についてお伺いします。(各項目ではまる番号1つに○)

		そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わ ない	そう 思わ ない
1	看護職員を大切にする組織である	1	2	3	4
2	今の勤務先は目先の利益にとらわれず、長期的な視点にたった経営をしている	1	2	3	4
3	今の勤務先の将来に不安はない	1	2	3	4
4	上下関係にこだわらず、主張すべきことを自由に話し合える	1	2	3	4
5	上司は自身の考え方や方針を十分に説明している	1	2	3	4
6	上司はあなたの考え方をよく聞いて、理解している	1	2	3	4
7	上司は仕事の成果について公正に評価している	1	2	3	4
8	上司は必要な時に、的確なアドバイスや支援をしている	1	2	3	4
9	看護ケアに費やす時間を十分にとることができる	1	2	3	4
10	必要に応じて休職が認められる	1	2	3	4
11	必要に応じて今の雇用形態のまま、短時間勤務に変更できる	1	2	3	4
12	有給休暇は必要に応じて取得できる	1	2	3	4
13	一週間程度の連続した休暇を必要に応じて取得できる	1	2	3	4
14	今の勤務先にできるだけ長く勤めたい	1	2	3	4
15	業務が終われば周囲に気兼ねなく帰ることができる	1	2	3	4
16	現在の仕事は、自分の能力を活かせる仕事である	1	2	3	4
17	現在の仕事は、自分の能力向上の機会になっている	1	2	3	4
18	現在の仕事の量と仕事の内容に対して今の給与は妥当である	1	2	3	4
19	現在の仕事は、自分の描く将来像につながる仕事である	1	2	3	4
20	今の勤務先は能力開発の為に研修の実施、またはその参加を支援してくれる	1	2	3	4
21	定時に終わることができる	1	2	3	4
22	勤務表作成時に個人の希望が通りやすい	1	2	3	4
23	現在の働き方に満足している	1	2	3	4
24	現在の生活(家庭生活・地域生活等)に満足している	1	2	3	4

問18 看護補助者の確保が難しいと聞いています。看護補助者の確保や業務内容について、ご意見がございましたらご記入ください。


問19 その他、日々の看護業務を通じて感じられていることやご意見がございましたらご記入ください。


(どの問も枠内に収まらない場合は、余白へご記入ください。)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

入退院調整  
川大 倉敷  
川大 倉敷

備中県民局エリアの医療連携等の取組

区分	備中本所	備中井笠	備北本所	備北新見
医療・看護・介護連携推進会議 (多機関の責任者会議)	倉敷地域医療・看護・介護連携推進会議 25年度～年1回	みんなで考える井笠の医療と介護 22年度～年2回	高梁地域医療連携推進協議会 19年度～年2回	新見地域医療連携推進協議会 20年度～年2回 27年度 3回 28年度～新見市在宅医療介護連携推進協議会に移行 年2回
多職種実務者会議 (ワーキング会議)	24年度19回 25年度20回 27年度6回 28年度4回 29年度8回 30年度5回	22年度～年2回～3回	21年度～年2～5回	19年度～年2～9回 27年度実務者3回,企画役員会8回 28年度実務者3回企画役員会6回 29年度実務者7回企画役員会1回
情報共有ツールとホームページへの公開年度	24年度「医療・介護連携シート」 27年度「医療・介護連携シート」CT版 28年度「病院窓口一覧」 29年度「住民向けリーフレット」 30年度シート活用事例集」作成	24年度「むすびの和(井笠版)」公開 27年度「むすびの和(改訂版)」公開 28年度「むすびの和(改訂版)」Excel版をHP掲載 29年度「むすびの和」活用のための事例集公開	21年度「情報共有ツール高梁版」作成・公開	「情報共有ツール新見版」21年度ICT版(Z連携)25年度～開始
情報共有ツール活用と連携実態把握等	25年度退院時調整会議開催状況調査 H26年度、H27年度ツール活用実態調査	25年度退院時調整会議開催状況調査 26年度むすびの和活用実態調査 28年度むすびの和活用等に関する調査	22年度 高梁版情報共有ツール活用状況調査 27年度 入退院支援の実態調査	22年度共有書活用実態調査 24年度共有書活用実態調査 27年度広域連携実態調査 退院調整会議見学と意見交換22年度～
医療・看護・介護連携窓口の公表方法と年度	ホームページ掲載24年度 随時更新	冊子作成配布 ホームページ掲載 24年度 随時更新	21年度 冊子作成配布、ホームページ掲載 随時更新	冊子作成配布 ホームページ掲載21年度作成 随時更新
晴れやかネット拡張機能(ケアキャビネット)*	27年度「医療・介護連携シート」を用いて実施(総社市)	25年度～「むすびの和(井笠版)」を用いてモデル事業参加 27年度 利用促進のための説明会 9回	27年度～「やまぼうし(高梁版)」を用いて実施	新見地域ではZ連携(多職種連携ツール)による情報共有)25年度～開始
医療・看護・介護連携推進シンポジウム、研修会等	25年度研修会15回、シンポジウム1回 26年度～毎年 研修会1回 H30住民向けリーフレット作成	25年度 シンポジウム1回、むすびの和説明会6回 26年度研修会1回 27年度研修会1回 28年度研修会1回 29年度研修会1回 30年度研修会2回(口から食べること・連携シート活用等)に向けた研修会)	25年度～研修会2回	25年度 多職種連携研修会4回 26年度研修会2回 出前講座4回 27年度研修会2回 出前講座6回 地域医療・看護・介護に関する情報発信(新聞掲載)23年度～ 糖尿病予防普及啓発23年度～ 低栄養予防実態調査24年度、普及啓発25年度～ お薬手帳普及啓発26年度～ お口の体操ポスター作成27年度
医療ミーティング			24年度実施	23年度から実施 27年度協議会3回、ふれあいミーティング(医療従事者と住民による座談会)、看護就職フェア等(28年度～単市で継続)
30年度取り組みの現状と課題	「入退院調整ルール」の活用啓発研修会、事例集の作成、実態調査から連携シートの見直しを図っている 総社市・早島町の半数は倉敷市内等の医療機関を活用しており、広域的な連携体制は必要災害を受け、住民向けリーフレットを見直し活用を図っている	在宅医療介護の一層の連携を図るため、「むすびの和」活用のための事例集を活用した研修会を開催するとともに、在宅ケアを推進するためには口から食べる事が不可欠であることから、口から食べることをテーマにした研修会を開催し、今後の共通認識を深めた。	H29年度から高梁市在宅医療介護連携推進事業において多職種連携の取り組みを進めることとなり保健所として参画している	在宅医療介護連携推進に向けて協議会、実務者会議、医療ミーティング、医師や広域的な連携体制の推進を図っている

プレスリリース  
報道各位

2019年8月2日  
株式会社 MICIN

## 国内初「ケーブルテレビでオンライン診療」の実証実験を開始 J:COM とシステム連携し、オンライン診療サービス「クロン」を提供

株式会社 MICIN は株式会社ジュピターテレコム（以下 J:COM）と共同で、ケーブルテレビを活用してオンライン診療をする実証実験を 2019 年 10 月から開始します。J:COM の顧客向けに、オンライン診療サービス「curon（クロン）」を提供し、テレビ上でのオンライン診療の有用性などを検証します。

### ケーブルテレビを活用したオンライン診療のイメージ



クロンはオンラインで予約・問診・診察・決済・医薬品の配送手続きまでを完結させるサービスです。クロンを利用すれば自宅や職場での受診が可能となり、患者の通院負担が減ることから、長期で通院が必要な慢性疾患の患者を中心に普及が進んでいます。現在、クロンの利用時は、患者がスマートフォン、医師がパソコンを用いています。ただ、特に高齢者の中にはスマートフォンの操作に不慣れな人も少なくありません。そこで、患者側の選択肢を増やし、利便性を向上させることを目的に、テレビ上でのオンライン診療について有用性を検証していきます。

### 【実証実験の概要】

対象：東京都練馬区、足立区、葛飾区、板橋区、豊島区在住の慢性疾患を抱える 60 歳代以上の患者

期間：2019 年 10 月～2020 年 1 月

協力医療機関：大角医院（東京都練馬区）、長崎診療所（東京都足立区）、野村医院（東京都板橋区）、細田診療所（東京都葛飾区）、山下診療所（東京都豊島区）

内容：J:COM が開発するオンライン診療アプリとクロンのシステムを連携します。患者はリモコンを使ってテレビ上で予約や問診の入力をし、ビデオ通話で医師の診察を受けることができます。

### ■curon（クロン）

curon（クロン）は株式会社 MICIN が 2016 年 4 月に提供を始めたオンライン診療サービスです。患者はスマートフォン、医師はパソコンを使用し、予約から問診、診察、決済、医薬品の配送手続きまでをオンラインで完結させることができます。クロンは 2019 年 7 月時点で 1400 件のクリニックに導入されており、全都道府県を網羅しています。

クロンのサービス紹介サイト：<https://curon.co>

### ■株式会社 MICIN 概要

会社名：株式会社 MICIN（読み方：マイシン、旧・情報医療）

所在地：東京都千代田区大手町 2-6-2 日本ビル 13 階

設立：2015 年 11 月 26 日

代表者：代表取締役 原 聖吾

事業内容：医療データを AI などで解析・活用するデータソリューション事業とオンライン診療サービス「クロン」などを手掛けるアプリケーション事業

コーポレートサイト：<https://micin.jp>

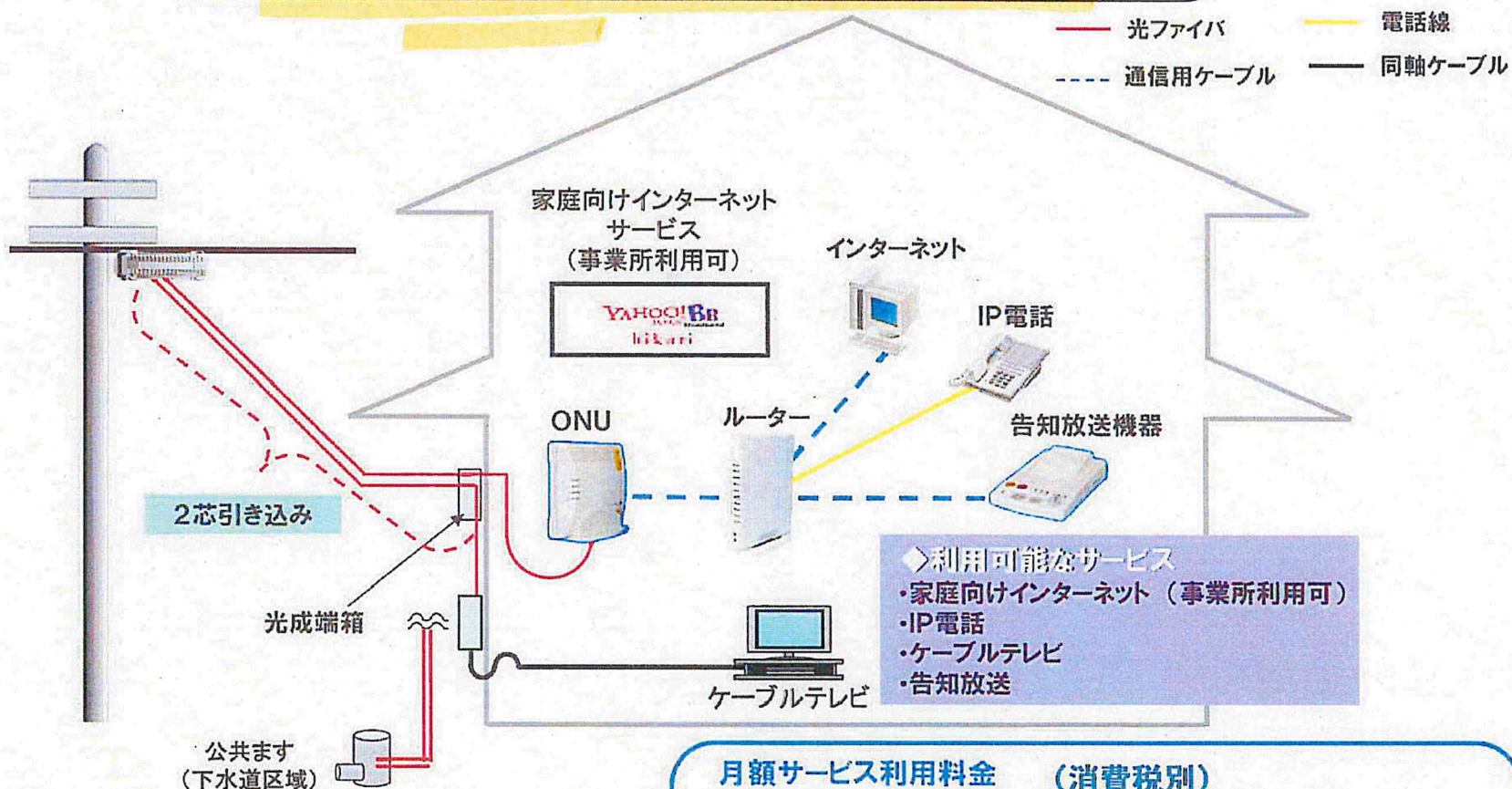
### ■株式会社ジュピターテレコムについて

株式会社ジュピターテレコム（本社：東京都千代田区）は、1995 年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州・山口エリアの 12 社 71 局を通じて約 551 万世帯のお客さまにケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話、モバイル、電力、ホーム IoT 等のサービスを提供しています。ホームパス世帯（敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯）は約 2,161 万世帯です。番組供給事業においては、17 の専門チャンネルに出資及び運営を行

い、ケーブルテレビ、衛星放送、IP マルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。※世帯数は 2019 年 6 月末現在の数字です。

**【報道関係のお問い合わせ先】** 株式会社 MICIN 中（なか） E-mail : [pr@micin.jp](mailto:pr@micin.jp)

接続イメージ図（光ファイバ2芯引き込み）  
 <個人：住民票なし・事業所：従業員常駐しない>



住民票が無い(従業員が常駐しない)場合  
 の負担金 ……工事費相当額

月額サービス利用料金 (消費税別)

詳細についてはソフトバンク、にのみiチャンネルにお問い合わせください。

インターネット利用料 4,651円/月

IP電話基本料金 インターネットと同時加入の場合 500円/月

IP電話のみ加入の場合 950円/月

※加入時に加入金が必要になります。

ケーブルテレビ 基本料金 お手軽コース 2,580円/月 ~

※加入時に加入金・工事費が必要になります。

## 認定情報閲覧の流れ（ケアマネ側から）

※認定情報＝介護認定審査会資料（主治医意見書＋訪問調査記録）

### ○これまで

1. 新見市介護保険課へ認定関係情報提供請求書を送付  
事業所印必要
2. 2日後電話で出来ているか確認
3. 市役所に各居宅ボックスへ受け取りに行く

### ○ケアキャビネット利用後

1. 希望する居宅はケアキャビネット登録
2. 新見市介護保険課と情報の取り扱いについて覚書
3. 認定関係情報提供請求書をケアキャビネット上で電子申請
4. 数日後、ケアキャビネットから情報を確認し、印刷

### ○今後のタイムスケジュール

- ・12月初め 新見市介護保険課⇄新見医師会間でダミーデータのテスト
- ・12月中旬 各居宅へ取り組み説明、可能であれば事前にケアキャビネット申請  
(開通まで一週間程度必要)  
⇒新見市介護保険課 要綱の改正
- ・翌1月中旬 各居宅へ説明会の開催  
⇒順次実証運用開始



こんなことをやってみました！こんなことが生まれています！  
～活動の風景や印象的な瞬間の写真、エピソード、工夫したもの・つくいだした、などなど、自由に！～

1枚でも、数枚になってもOK!

【本人ミーティング(オレンジ広場)】



令和元年度町民芸術祭への展示作品

【認知症カフェの啓発活動】



おつかれさまでした！ 作成した**原本とコピー6部**を当日**必ずご持参**下さい。(白黒で可) **当日を、一緒に楽しい研修に♪**

こんなことをやってみました！こんなことが生まれています！

～活動の風景や印象的な写真、エピソード、工夫したもの・つくりだしたもの、などなど、自由に！～

1枚でも、数枚になってもOK!

【認知症見守り・声かけ体験】



【認知症の人の視点に立って認知症への社会の理解を深めるキャンペーンの実施】

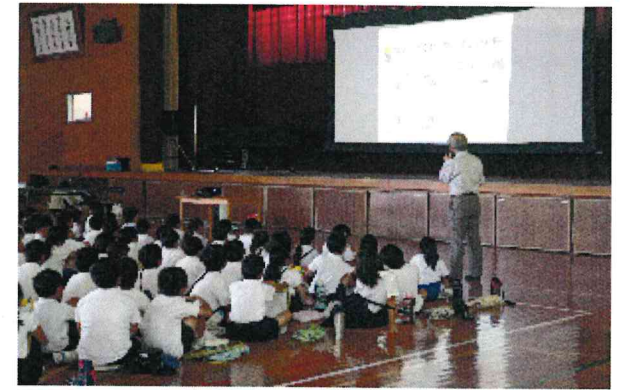


オレンジライトアップ



図書館における認知症啓発

【認知症サポーターの養成と活動の支援】



おつかれさまでした！ 作成した**原本とコピー6部**を当日**必ずご持参**下さい。(白黒で可) **当日を、一緒に楽しい研修に♪**

# 認知症の人が接客 店内に笑顔 津山にレストラン「開店」

地域話題

津山市

認知症の人が接客する岡山県内初の「注文をまちがえるかもしれないレストラン」が22日、津山市内に“開店”した。ミスがあっても客が温かく受け入れ、認知症の人も明るく対応し、店内に笑顔が広がった。

認知症になったからといって、何もできなくなるわけではないことを知ってもらうのが狙い。市内の通所施設を利用する70～90代の男女6人が、同市本町のイタリア料理店で補助スタッフの力も借りながら接客。ランチセットと飲み物を選ぶ注文を受け、できた料理を座席に運んだ。食べ終わった皿なども手際よく片付けた。



認知症の人が接客したレストラン

2部制で計32人の客が訪れた。客は同じ料理が二つ運ばれてきても「もうありますから、あちらに」と正しい配膳先を伝え、コーヒーと紅茶を間違えた場合は隣席で交換した。認知症の人が、注文を誤らないよう客に紙を渡して書いてもらう場面も見られた。

「デザートが2回来たが、全く問題ない。やる気と役割があると認知症になっても明るく働けることが分かった」と大学2年の女子学生（19）。接客した女性（93）は「みんな喜んでくれて楽しかった」と話した。

レストランは、東京での先行例を参考に、津山市地域包括支援センターの呼び掛けで開催した。7、9月にも各1日開く。

(2019年05月23日 00時32分 更新)